

平成 28 年度「第 1 回ケアラーサポーター育成研修」開催報告 地域に学び、地域で支える

～ケアラー（家族を介護する人）を孤立させないために～

【日時】平成 28 年 5 月 25 日（水）17：00～19：00

【場所】長崎大学文教キャンパス 文教スカイホール

【講師】

第一部：本村 昌文 氏

（国立大学法人岡山大学 社会文化科学研究科）

第二部：谷 祐樹 氏

（長崎市琴海地域包括支援センター）

長崎大学
平成28年度 第1回ケアラーサポーター育成研修
地域に学び、地域で支える
～ケアラーを孤立させないために～
平成28年
5月25日(水)
17:00～19:00
(開場/16:30)
参加費無料
※事前にお申し込みください
託児あり
講師 井口 茂 氏
(長崎大学医歯薬学総合研究科 教授)
■第一部：基調講演
「あなたもケアラー？～ケアラーロボットの光と影～」
長崎大学人文学部
本村 昌文 氏
(社会文化科学研究科 准教授)
■第二部
「地域包括支援センターの役割と地域でのささあひについて」
長崎市琴海地域包括支援センター 谷 祐樹 氏 (管轄科)
会場 長崎大学文教スカイホール
(グローバル教育 学生支援課4階) 一般(地域)の方
長崎大学学生・教職員
お問い合わせはご連絡ください。
電話:095-819-2179 FAX:095-819-2159
Eメール:care@ccp.nagasaki-u.ac.jp URL:www.ccp.nagasaki-u.ac.jp

平成 28 年 5 月 25 日（水）、長崎大学文教キャンパス文教スカイホールにて、「第 1 回ケアラーサポーター育成研修」を開催いたしました。

当日は晴天に恵まれ、学内外から 129 名の参加者があり、介護者支援に対する関心の高さがうかがえました。

1. ご挨拶（ダイバーシティ推進センター 伊東昌子センター長）

最初に、伊東センター長より挨拶がありました。挨拶の中で、ケアラーとは介護をしている人であること、ケアラーサポーター育成研修では、介護をしている人の心に寄り添うことができるような人材を育てていくことが目的であると述べました。

2. 事業説明（座長：医歯薬学総合研究科 井口 茂 教授）

事業の説明として、長崎大学医歯薬学総合研究科井口教授より、「長崎大学ダイバーシティ推進センターにおける介護支援事業」と題し、ダイバーシティ推進センターの組織について、平成 27 年度に実施した「介護状況の把握に関するアンケート」の結果について、介護支援専門委員会の活動内容について、また、今後社会に出て活躍する学生においても、仕事・育児・介護の両立が必要である社会情勢となっていることの説明があった。



写真 1. 伊東センター長挨拶



写真 2. 事業説明 井口教授

3. 第一部：基調講演（国立大学法人岡山大学 社会文化科学研究科 本村 昌文 氏）

岡山大学社会文化科学研究科本村准教授より、「あなたもケアラー？ーケアラーサポートの光と影ー」と題し、自己紹介をかねてのこれまでの自身の活動について、ケアラーサポートは「介護問題」の「光」になるのか、なぜ「ケアラー」をサポートするのか、どのようなサポートが必要なのか、ケアラーサポートの「影」とは何か、「誰もがケアラーになる社会」で私たちはどう生きるのかについてお話いただきました。ご自身の介護経験から、介護する人の相談場所や頼れるところがなく一人で悩み、「介護者の孤立」を実感し、その後「介護者を支える団体」を立ち上げ活動を開始したこと、現職場へ赴任後も介護者支援に取り組み、活動しているとの説明がありました。病気・地域・職種をこえて「介護」に関心のある人の集える場を形成し、介護者の孤立を防ぎ、精神的な支えと休息する機会を提供し、「介護」に関する有益な情報を共有することで、よりよい介護を実現することを活動理念としていると説明されました。また、介護を体験した人にしか気持ちは分からない等、同一の体験をもたない他者を排除する場があることや「介護生活」＝ネガティブに捉えること、「幸福な過去の時間へ戻りたい」と思い、「介護生活」は苛酷であると思ってしまうことが、影となる部分ではないかと説明されました。ケアラーサポートは社会のひずみを映し出しており、一つの通過点に過ぎないこと、その先にどのような人生・社会を構想するかが重要であること、既存の生き方やそれを支える価値観・規範を根本的に見直す必要があること、ケアラーサポートを通して、「介護」によって人生の大切なことをあきらめなくてはならないような社会をいかに変えていくかを考えることができる、と述べられました。

4. 第二部（長崎市琴海地域包括支援センター 谷 祐樹 氏）

長崎市琴海地域包括支援センター管理者谷氏より、「地域包括支援センターの役割と地域でのささえあいについて」と題し、地域包括支援センターの設置状況や地域包括ケアシステムについて、地域包括支援センターの業務について、琴海地区の現状と取り組みについて、介護者への支援について等お話くださいました。その後「地域包括ケアシステムの構築は専門職だけでは難しいところがある」と述べられ、地域のみなさんや関係者のみなさんに地域包括ケアシステムを分かりやすく伝えたいという思いで作成したスライドをご紹介します。それは、「支えが必要になっても安心して地域で暮らし続けるということ」との題目で、20年間1人暮らしをしながら認知症の診断を受けたご本人が主演しているスライドで、その内容は、短期記憶障がいがあり、長距離の1人歩きをされ、要介護認定を受けていますが、多くの地域のみなさんに見守られ支えられながら、地域で暮らし続けているというものでした。地域の関係者の理解や協力、支えあいがあれば、認知症と診断を受けていても、地域でいきいきと自分らしく生活を続けられるということを理解いただき、このような取り組みが少しずつでも広がり、住みやすい社会に少しでも近づいていくことを願いますと締めくくられました。



写真3. 岡山大学 本村准教授



写真4. 長崎市琴海地域包括支援センター
谷 氏

5. まとめ（座長：長崎大学医歯薬学総合研究科 井口 茂 教授）

最後に、長崎大学医歯薬学総合研究科井口教授より、地域には元気な高齢者がたくさんいて、サロンを立ち上げたり、老人クラブなどで交流や活動をしている。そこには、元気な学生さんが来ることを楽しみに待っているのので、機会があれば是非参加してほしいこと、また、今後、開催する交流会への参加もお願いしたいと締めくくられました



写真5. ケアラーサポーター育成研修風景

第1回ケアラーサポーター育成研修には、多くのみなさまにご参加いただきました。センタースタッフ一同、心よりお礼申し上げます。アンケートでは「経験に基づいた講演で、介護者の大変さや、支え合うことの必要性がわかった」「自分の親はそんなに若くないので考えさせられました」「高齢者の方とたくさん触れ合ってみたいと思いました」「親は50代だけど持病があり、大学卒業後のことを考えさせられた」「介護は人間が活着ている間は避けて通れないことだと思う」など、気づきや学びについてのコメントが多くありました。アンケートへご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

長崎大学ダイバーシティ推進センターは、今後も引続きケアラーサポーター育成研修を開催していく予定としております。昨年度開催時のアンケート結果より、今年度は認知症に焦点を当て、認知症について学ぶ、認知症サポーター育成研修等を内容に取り入れ検討しております。今後ますます介護の課題を抱える人が増加することが確実視されているなか、介護者が孤立することなく介護者も要介護者も共に社会参加ができる環境作りができるよう、地域に学び地域で支える支援へ取り組んでまいります。